

組織目標評価報告書(平成30年度)

32

部局名: 中性子医療研究センター

部局長名: 竹内 大二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> 世界標準のガイドラインに対応する新規ホウ素薬剤の開発に向けて研究を進展させる。 クロスアポイントメント制度等を活用して国内外の研究者を受け入れる。 外部資金を積極的に獲得し、研究をより加速させる。 	<ul style="list-style-type: none"> がん治療の基本的な考え方「がんゲノム医療」コンセプトをBNCTに取り込むPrecision Medicine BNCT構想を提唱し、研究を進展させた。 クロスアポイントメント制度を活用して、熊本大学やイタリアからの研究者を受け入れた 名古屋大学が獲得したAMEDプロジェクトの研究分担者となり研究を進め、更に「革新がん医療創生研究事業」での採択、橋渡し研究加速ネットワークプログラムへの応募を行なった。
②-2 年度計画との関連	②-2 大学全体への貢献
<ul style="list-style-type: none"> 研究大学「岡山大学」の構築 基礎研究から社会実装まで連続性のある研究大学「岡山大学」の構築、プロジェクト研究の拠点化 ダイバーシティの推進、組織の活性化 女性教員の増加促進、クロスアポイントメント制度を活用した人材の確保 外部研究資金等の獲得の推進 	<ul style="list-style-type: none"> NTRCならびに岡山大学の2つの研究所とで構成する研究分野が「重点領域」指定を受け、研究大学構築に貢献した クロスアポイントメント制度を活用し、国内外の研究者を招聘した 企業との共同研究契約を締結し記者発表を行なった。企業から研究材料の提供や研究費支援を受けた。
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 研究論文の発表状況 クロスアポイントメント制度による研究者受入状況 女性教員の採用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 研究論文の発表状況 原著論文:10, 総説:1 クロスアポイントメント制度を活用し国内1名、海外1名の研究者招聘を行なった 女性教員1名、女性技術職員2名、女性非常勤研究員を採用した。
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療の世界基準を定める国際原子力機関(IAEA)やドイツ・Duisburg-Essen大学、イタリア・Pavia大学等との連携を深め、国内の関係機関の協力も得つつ中性子を利用したがん治療におけるガイドラインの策定を目指す。 将来の「中性子医療関連研究拠点」の形成に向けて、研究の状況、病院の考え方等も考慮し、検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際原子力機関(IAEA)を訪問し担当部長との間で公的な文書記録の作成と格納に合意した。ドイツ・Duisburg-Essen大学、イタリア・Pavia大学から研究者を受け入れ、名古屋大学との交流も促し、新たなガイドライン策定に資する活動を進めた。 名古屋大学の装置開発が進展し、細胞実験が行える状況になったことから、連携を深め「中性子医療関連研究拠点」の具体的な姿を模索している。
③-2 年度計画との関連	③-2 大学全体への貢献
<ul style="list-style-type: none"> 研究大学「岡山大学」の構築 基礎研究から社会実装まで連続性のある研究大学「岡山大学」の構築、プロジェクト研究の拠点化 産学官連携活動の推進 全国レベル・地域レベル双方の産学官連携活動を展開 	<ul style="list-style-type: none"> 研究大学「岡山大学」の構築に、医療系部門のNTRCとして協力した。BNCTでの新たなホウ素薬剤研究で、研究者間のネットワークを整備し、NTRCがそのハブとして機能する(拠点化)ための情報・データの集積・管理運用に資するLIMSシステム整備を進めた。 全国の新規ホウ素薬剤研究者との共同研究を進め、産学官連携活動を展開した
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ガイドライン策定に向けた進捗状況 IAEAにおけるBNCT物理・線量評価分野のConsultants' Meeting(専門家会議)の開催準備 	<ul style="list-style-type: none"> 国際原子力機関(IAEA)のBNCTに関する新たなガイドライン策定につながる、公的なBNCTに関する文書記録(活動記録)の作成を行い、格納することを合意した。新部長着任後、当該記録を活用し専門家会議開催などの働きかけをおこなう。
④管理運営領域	
④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
研究領域及び社会貢献領域にまとめて記載	<ul style="list-style-type: none"> がん治療の基本的な考え方「がんゲノム医療」コンセプトをBNCTに取り込むPrecision Medicine BNCT構想を提唱し、研究を進展させ、これをIAEAとの活動においても説明し、公的な文書記録にも記載し残すことを進めている。
④-2 年度計画との関連	④-2 大学全体への貢献
ガバナンス機能・運営体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 副センター長の役割を明確化し、センターのガバナンス機能・運営体制を強化した。更に、学長をはじめとする大学執行部に、センターの現状と課題、課題点への対策を説明し、方針に対する包括的な方向性への理解と具体的な指示
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組み・達成状況
研究進捗レビュー状況	各部門への「マイルストーン」進捗状況報告の提出を指示した。3月には、初めての評価委員会が開催される。
【総括記述欄】	
<p>中性子医療研究センター(NTRC)が発足し、H30年12月には第二回シンポジウムを開催することができた。新たなBNCTとして、Precision Medicine BNCTのコンセプトを見出し、今年度から、エビデンスを獲得しながら内外に提唱し始めている。臨床応用を含め、当該コンセプトを実証するためには、新規ホウ素薬剤の研究開発が不可欠である。その候補のひとつとしてOKD-001の研究を加速している。現状は、そのCMC研究、毒性試験実施のためのプロトコル完成を早期に実現して、PMDAとの対面助言に臨むところまできている。また、管理体制を見直し、ガバナンス機能を強化し、研究実施に優先度を置いて進められる体制にした。今後は、必要となる資金の調達をどのように実現するかが重要となる。</p>	